

## ▲ 審判 (主審・副審) 確認事項 (藤沢市少年 2018 年度) ▲

ⓐ 競技会規定は各自で確認する。 ⓑ 記録 (得点・警告・退場等) は副審も行う。

ⓒ 交代は第 1 副審 (ベンチ側) が用具の点検等を行う。(第 4 審判がない場合)

ⓓ 負傷者の対応

骨折等の重傷ケースはすぐに試合を停止し、チーム関係者をフィールドに入れる。

ⓔ ゴールイン

◇ 通常の得点の場合

> 副審は主審とアイコンタクトしながらハーフウェーラインの方へ走る。(特にフラッグの合図は不要)【競技規則 P178】

◇ きわどい得点 (クロスバー・ゴールポストから跳ね返ってゴールラインを完全に越えてからフィールドにボールが戻る、ネットが切れていて完全に得点ではあるがボールはゴール後方に転がっている等) の場合

> 副審は出来る限りゴールラインの延長線上に立ち、フラッグを上げて主審の注意を引く。主審とアイコンタクトを行い、主審がゴールインのホイッスルを吹いた時点で、フラッグを上げずにハーフウェーラインの方へ素早く走る。【競技規則 P178】

ⓕ オフサイド

◇ 通常のオフサイドの場合

> 副審は良く見極め、競技規則第 11 条、【競技規則 P190、オフサイド】及び、「その他のアドバイス」【競技規則 P193~199】に基づきフラッグで合図する。(視野確保のため右手で上げる)

◇ 主審が副審の合図を見逃している場合

> 副審は攻撃側が有利な状況 (攻撃が続いている、コーナーキック、得点等) の間はフラッグを上げ続ける。主審が気づかず、守備側が有利な状況 (ボールをコントロールする) になった時点でフラッグを降ろし通常的位置へ素早く戻る。【競技規則 P190】

◇ 副審の合図を主審が採用しない場合

> 主審の判断 (ボールを何ら問題なく GK が保持した、オンサイドポジションの選手がボールをプレーしたためオフサイドが成立しなかった等) によりオフサイドの合図を採用しない場合は、主審はフラッグを降ろすように副審に手で合図する。

ⓖ ファウル (アドバンテージを積極的に適用しよう!!)

◇ 主審がファウルを判定できなかった場合の副審の合図

> 副審に間近なところ、または主審より副審がはっきりと見えるファウルまたは不正行為があったときに合図する。(アドバンテージも考慮しながら)【競技規則 P188~189】

◇ 副審の旗を主審が採用しない場合

> アドバンテージ等によりプレーを続けることを主審が判断した場合、主審はフラッグを降ろすように副審に手で合図する。

